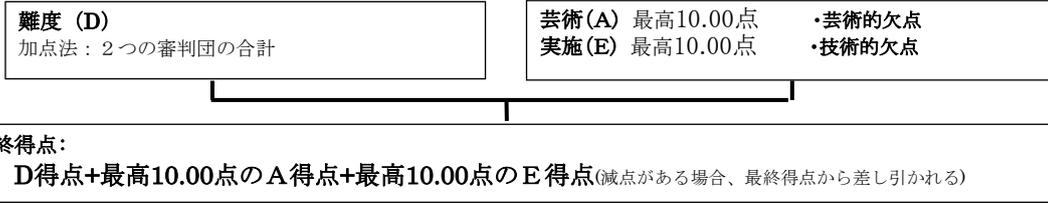


総則

点数配分と計算



個人演技【得点の配点】

難度 (D) (加点)	芸術 (A) 10点満点(減点)	実施 (E) 10点満点(減点)
<p><b>・身体難度 (DB)</b> 最低3個 最も高いものから7個                      各身体グループから最低1個の難度                      (ジャンプへ、 バランス <b>T</b> ローテーション <b>o</b> )                      基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って                      スローターンバランス ルルベでも踵をつけてでも最高1個                      コンバイン難度は最高1個</p> <p><b>・全身の波動 (W)</b> 最低2個                      DB:基礎手具技術グループまたは基礎でない手具技術グループを伴って                      DBでない:基礎または基礎でない手具操作は要求されない                      (手具は動いていること)</p> <p><b>・回転と投げを伴ったダイナミック要素 (R)</b> 最高4個(実施順に)</p> <p><b>・手具難度 (DA)</b> 最低1個 最高10個(実施順に)                      特有な基礎手具要素 最低各2個ずつ                      基礎手具要素 最低各1個ずつ</p>	<p>芸術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術的構造とパフォーマンス:構成の目的</li> <li>音楽規範</li> <li>・動きの特徴</li> <li>・ダンスステップコンビネーション 最低2個</li> <li>・身体の表現 身体と顔の表現</li> <li>・ダイナミックな変化 最低2個</li> <li>・身体と手具の効果</li> <li>特有な音楽と特有な動きの調和</li> <li>多様性:投げと受け</li> <li>・空間の使用</li> <li>・統一性</li> <li>・つながり</li> <li>・リズム</li> <li>音楽終了時の動き</li> </ul>	<p>技術的欠点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身体の動き</li> <li>・手具の技術</li> </ul>

【特別ルール】

- ①DBは形と手具操作が明確であればET-0.5の大きな誤差があってもETの減点を伴って有効とする。
- ②RIは投げの高さに若干の不足があっても有効とする。但し立位1.5倍を越すこと。
- ③DAは高さにも回転にも許容はない。
- ④ボールにおける片手受けは基礎手具操作の総数カウント時のみ、直立1.5倍の高さからの受けを有効とする。
- ⑤空中下における単独のDBの投げの高さに若干の不足があっても有効とする。但し立位1.5倍を越すこと。

【使用手具について】

☆リボンは5mとする

【予備手具について】

審判席		
ササキ製		チャコット製
フープ 81(白・丸形) ボール(白) クラブ(白) リボン6m(白) リボン5m(白)	競技フロア	フープ 85(白・丸形) ボール(白) クラブ(白/コーラル) リボン6m(白) リボン5m(白)

【審判構成】

- ☆全国大会に繋がる予選大会:DB2/DA2/EA4/ET4
- ☆全国大会に繋がらない大会:DB2/DA2/EA2/ET2

【その他】

- ・道内大会の化粧は認めない。
- ・髪飾りについては、高体連ルールに準ずる。
- ・レオタードの変更は2022年-2023年を移行期間とし、旧ルールのレオタード着用を認めるが、ルール変更の趣旨はあくまでも選手を守ることにあることから、あまりにもルールから逸脱したレオタードの着用は控えること。
- ・上記ルールの修正および変更又は日本体操協会による追加・変更がある場合は随時採用を検討し連絡する。